

令和5年11月30日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部

令和5年産りんごの生産概況

1 気象（黒石：りんご研究所）

(1) 積雪深

積雪深は全般に平年を上回って推移したが、3月中旬以降は平年を下回り、消雪日は平年よりも7日早い3月21日であった。最深積雪は2月22日の115cm（平年97cm）であった。

(2) 気温

平均気温は1月下旬を除き平年並から高めに推移した。特に3月、6月及び8月は観測史上第1位に高く、7月、9月は観測史上第2位に高かった（3月はりんご研究所における気象観測値の順位。それ以外の月は黒石アメダスの観測値の順位）。真夏日は計44日で猛暑日は計4日であった（黒石アメダス観測値）。特に8月10日は県内多くのアメダス地点で35℃以上を観測し、弘前（39.3℃）、五所川原（39.0℃）などのアメダス地点で日最高気温の観測史上第1位を更新した。

(3) 降水量

降水量は3月下旬、5月上旬、7月中旬、9月下旬及び10月上中旬は平年より多かった。特に7月第3半旬の降水量は103mmと観測史上第2位に多かった。一方、8月の降水量は47.5mmで平年比34%と過去20年間で最も少なかった。

(4) 日照時間

日照時間は4月中旬、6月下旬及び7月中旬を除き、平年並から多く推移した。特に、3月は195.5時間（平年比153%）、8月は258.5時間（平年比149%）で観測史上第1位となった。4月から10月までの総日照時間は1,330時間（平年比112%）となった。

2 生育ステージ（発芽～落花）

黒石でのふじの発芽日は平年より15日早い3月23日、展葉日は15日早い4月3日であった。開花日は12日早い4月25日、満開日は11日早い5月1日、落花日は11日早い5月5日であった。発芽日、展葉日は観測史上第1位、満開日、落花日は観測史上第2位、開花日は観測史上第3位に早かった。

五戸（りんご研究所県南果樹部）でのふじの発芽日は平年より15日早い3月23日、展葉日は15日早い4月4日であった。開花日は14日早い4月25日、満開日は12日早い5月1日、落花日は12日早い5月7日であった。

3 開花・結実と着果状況

開花量はいずれの品種も確保された。一部園地で開花期間中の降霜により中心果の欠落などが見られたものの、いずれの品種も標準着果量を上回り、結実量は確保された。

着果率は7月19日、20日に県が行った調査では、つがる36.6%、ジョナゴールド33.5%、王林36.7%、ふじ32.9%で、園地によってバラツキがあるものの、いずれの品種も標準着果率（つがる、ジョナゴールド：28.6%、王林、ふじ：25.0%）を上回った。

4 果実肥大（横径）

開花が平年より早かったことから、黒石における6月1日時点の果実横径は、つがるで2.8cm（平年比147%）、ジョナゴールドで3.0cm（平年比150%）、ふじで2.7cm（平年比169%）と平年をかなり上回った。特にふじは歴代第1位同位、つがる、ジョナゴールドは歴代第2位に大きかった。

最終調査時では、つがるで9.3cm（平年比104%）、ジョナゴールドで9.6cm（平年比102%）と平年をやや上回り、ふじで8.8cm（平年比99%）と平年並であった。

県生育観測ほのふじの果実肥大は、青森市は平年並、弘前市は平年をやや上回り、板柳町、三戸町では平年を上回った。

5 収穫期

黒石での果実熟度の進みは、早生品種が平年より7日程度、中生品種が5～7日程度、晩生品種が5日程度早かった。

収穫始めは、つがるが9月3日頃、トキが9月23日頃、早生ふじが9月24日頃、ジョナゴールドが有袋果で10月8日頃、無袋果で10月10日頃、ふじが有袋果で10月25日頃、無袋果で10月30日頃であった。

6 果実品質（黒石：りんご研究所）

つがるは、平年と比較して、糖度が高く、着色指数がやや低く、硬度、酸度及びヨード反応指数が低かった。

トキは、表面色指数が高く、硬度、糖度、酸度及びヨード反応指数が低かった。

ジョナゴールドは、糖度が高く、着色指数がやや高く、硬度がやや低く、酸度及びヨード反応指数が低かった。

有袋ふじは、糖度が高く、硬度、酸度、ヨード反応指数及び着色指数が低かった。無袋ふじは、糖度が高く、硬度がやや高く、着色指数、蜜果率及び蜜入り程度がやや低く、酸度及びヨード反応指数が低かった。

7 主要病害虫の発生状況

(1) 病害

発生時期は、モニリア病の葉腐れ、実腐れ、黒星病及び褐斑病は平年よりかなり早かった。

発生状況は、腐らん病、褐斑病がやや多く、黒星病、輪紋病が散見された。炭疽病が津軽地域で少なく、県南地域では散見された。

(2) 害虫

発生時期は、リンゴハダニの越冬卵のふ化がやや早く、最盛日が平年並、終息日がやや遅かった。ミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化、クワコナカイガラムシの越冬世代幼虫の移動が早かった。キンモンホソガ第一世代及び第二世代の羽化はやや早く、第三世代の羽化は早かった。モモシンクイガの成虫羽化及び産卵は平年並で、終息日がやや遅かった。

発生状況は、リンゴコカクモンハマキ及びトビハマキが一部園地で多く、ハダニ類はナミハダニが多く、リンゴハダニが一部園地でやや多かった。モモシンクイガが津軽地域でやや多く、県南地域で散見された。リンゴクビレアブラムシ、ナシマルカイガラムシ、ヨトウガがやや多かった。

8 生理障害等

4月下旬の降霜や5月上旬の降雨、夏季の強い干ばつ後の雨による急激な肥大などにより、つがる、ジョナゴールド、王林、ふじでさび果の発生がみられた。

開花は早かったが、7月下旬や8月の降水量が少なかったことから、ふじのつる割れの発生は平年並であった。

9 気象災害

厳冬期の凍害によるものとみられる枝枯れ症状がみられた。夏季の高温によりつがるを中心に日焼け果の発生がみられたほか、着色不良や果肉の軟化がみられた。さらにトキやジョナゴールドなどでは収穫前落果が見られた。ジョナゴールドの有袋果では被袋期間中に高温による落果がみられた。

※令和6年りんご生産情報第1号は、令和6年4月上旬に発表予定。